ねぇ、聞いて？

広田　愛

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ねぇ、聞いて？

【Ｎコード】
Ｎ３１０５Ｈ

【作者名】
広田　愛

【あらすじ】
誰もが、経験したことのある・・・・・恋・・・・。その中で、苦く、甘く、つらく、シアワセな思いをした、一人の女の子の、最初で最後の本気の恋。～私は、大好きだったよ・・。それから今も・・・。～

第1話：出逢い（前書き）

かなり、ぐだぐだした、馬鹿な作者、広田　愛の小説です。読みずらいとは思いましが、最後まで見守ってくださると、うれしいばかりです＾＾。

第1話：出逢い

・・・・・あの時に、君に出会っていなかったら今頃どうなっていたのかなぁ。
君に聞いたら、「・・・・、もう会ってるんだから、いいじゃん^^。」
って、答えたよね？
・・・・・そうだよね。　もう出会っているから・・・。
だったら、これからの「未来」を、二人で・・・・・変えていけれたらいいな・・・・。

～小6クラス替え～
咲羅「　おっは～！！」
（咲羅・・・小6。いつも明るい女の子で、ドジっ子。）
友1　「あっ！咲羅おはよ～^^　そーいえば、クラス一緒だよ～！」
咲羅「うそっ！！　やったあ^^また一年よろしく～。」
友1　「こっちこそ！」

たわいのない会話。
どこの県でも、国でも、同じ会話。
私、咲羅十二歳は、これからあんなにも苦しくて、悲しくて、うれしくて・・・・そんな思いをするなんて思ってもいませんでした。

～教室～

咲羅「だから、あいつはああなんだって！」
友1，2「分かる！それなかったら問題なしなのに！」
友1　「そーいえば！」
咲羅　「？」
友1「あそこの、席の絵、描いてる人。」
咲羅「あの、窓際の？」
友1「そうそう。あいつ、友達なんだけど、絵、結構うまいよ。・・・見に行く？」
咲羅「ほんと？？なんかくらいけど・・・。」
友1「まあまあ。そういわずに。ほら、いくよ！」
咲羅「うん・・・。」

友1「奏太～。」
奏太「何～？今さぁ～、未確認生物かいてるんだけど・・・・。」
（奏太・・・絵を描くのが趣味。性格は暗いように見えるが、意外と明るい。）
友1「そんなん、いいから。ほらこの子、咲羅。仲良くしろよ～＾＾。んじゃ、うちはあっちいってはなしてくるから～＾＾。」
咲羅「えっ！あっ！ちょっと？！」
奏太「おいっ！！！！」
笑顔で、手を振る友達・・・。
咲羅（普通、おいていかないし～～！！！）
奏太（なんなんだよ・・・・・。）
咲羅（き、気まずい・・・。・・・・よしっ！）
咲羅「ねえ！絵、うまいんだね＾＾」
奏太「ふ～ん。」

咲羅（・・・、えぇっ！！！！！反応うす～！）

一瞬、じっと奏太は咲羅の目を見つめる・・・・・。

数秒見つめて思い出したかのように、ほかのところへと行ってしまった。

奏太「優大～。」

優大「あれ～！奏太じゃん！！！！！」

（優大・・・基本的に男としか話したりはしない。テンションはいつも高めな感じだけど・・。意外な一面を持っている。）

奏太「ひどくね～？いまさらかよ！！」

優大「うそうそ～＾＾きずいてた＾＾」

ワハハハハハ～～～＾＾

咲羅「あんな顔して、笑えるんじゃん。」

いろいろな人と仲良くなりたい。

元からそういう性格の咲羅は、そんな奏太に少しずつ惹かれていった。

第2話：気がついた。

咲羅「はぁ～、緊張する～・・・。」
教室の前で立ち往生している。
中には昨日知り合った、奏太がいる。いつもと同じように絵を描いている。
一人で、絵を描いている奏太はキラキラと、そして生き生きして見える。咲羅はまぶしく思えた。
咲羅は、昨晩、頭を悩ませて考えた、「～奏太と仲良くなろう！！～」という作戦をもう一度確認する。
大きく、深呼吸する。
気合を入れなおして、第一の作戦を実行するべく、教室のドアに手をかけた。
～ガラガラ～
咲羅「お、おはよっ！」
元気よく、にこやかにあいさつ。基本中の基本。
効果が無くてもいい。少しでも奏太に近づけるなら。ドキドキしながら返事を待つ。

奏太「お・・・はよ。」
ボソッ、と聞こえる奏太の声。
咲羅には、それがうれしかった。
奏太は下を向いて固まっている。
咲羅「今日は、何描いてんの？」
そういうと咲羅は奏太の机の前にしゃがむ。
一瞬見えた奏太の顔。林檎のような頬。真っ赤だった。
咲羅（もしかして・・・・奏太のあの反応やなんかは照れてるだけ？？）
友「おはよ～！！」

友達が入ってくる。すると急いでノートをしまってしまった。

優大「おはよ～。ってあれ？奏太・・・顔が・・・。もしかして・・・・・！」

奏太「な、なんだよ？！」あせる奏太。緊張して息が止まる。・・・・・・。

優大「林檎病？？？！！！」

奏太「マジ違うから！！」笑いが響いた。

優大「だよな～＾＾そういやあ、今日ヒマ？」

奏太「まあね。」

優大「じゃあ、遊ぼうぜ～＾＾。」

奏太「もち！！」奏太は笑っていた。

咲羅には、仲のイイ、優大が少し羨ましかった。

そんな時、そうは思っても、行動できない自分が咲羅はいやになった。

咲羅が、そう思うのには、理由があった。それは、過去に好きだった人に告白された。

でも、照れ屋な性格だった咲羅は返事も出来ず、ある日、

「もう、咲羅はいいから・・・。」

そう、話しているのを聞いてしまった。そのあの日から少し恐くなっていたのかもしれない。

人を好きになって、愛されて、そんな感情に流されてしまうことが。

キ～ンコ～ンカ～ンコ～ン

咲羅「うわあ！！やばいじゃん！？ボ～っとしてた。」

先生「お～い。授業はじめるよ～。」

キ～ンコ～ンカ～ンコ～ン

先生「あ～、なっちゃった。はい終わりますよ～。」

咲羅「やっとおわった～。」

そんな毎日を咲羅は楽しみに生きていた。

そう・・・・いつかはきっと奏太が自分に笑って話しかけてくれている場面を思いながら・・・・。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n3105h/

ねぇ、聞いて？

2010年12月27日17時12分発行